

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の 방법으로評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成27年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成28年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

自己点検・自己評価総括表

作成者: 芹澤 照之

作成日: 平成29年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 10

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	10	0	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	9	1	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	7	3	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	5	5	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	9	1	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の項目は「ほぼ適切」との評価が5割を占める結果となった。

学園の年間業務計画書であるOCP計画書に「学園の基本運営方針」「学園の教育目標」「学園スローガン」が定められており、その中で学校の理念・教育目標・育成すべき人物像等が明らかにされている。

また、毎年学生に配布している学生手帳(トライアングル手帳)の中にも「大原生の4つの入学目的」や学園の教育理念である「トライアングル教育」についての記述があり、毎日のホームルーム等で手帳活用方法の確認とあわせて教育理念等の学生への浸透を図っている。

一方、保護者へはこれまで、入学前の保護者説明会、入学式、保護者向け就職ガイダンスでの紹介にとどまっており、全員を対象とした機会が確保されていなかったが、平成29年4月新入生の保護者を対象としたオリエンテーションを入学式直後の4月9日に実施しており、学園の教育理念や教育目標の浸透に努めている。

この、新入生の保護者を対象としたオリエンテーションは今後も継続実施していく。

②今後の改善方策

保護者に対する教育理念等の周知は一昨年度からの継続課題であり、入学式や入学後の保護者ガイダンス等に加え、入学前の学校説明会時の保護者説明等で直接、学園の教育理念・教育目標を伝える等その機会を増やしている。

平成29年度より新入生の保護者を対象としたオリエンテーションを実施し、学園の教育理念や教育目標を伝える機会をさらに増やしており、今後も様々な機会に保護者に周知できるよう努めていく。

③特記事項

平成27年度より「公務員科」「医療事務科」「ホテル・ブライダル科」の各学科で「教育課程編成委員会」を組織し、毎年度内に2回の会議を開催している。今後も継続して委員会を開催し、個別委員(業界関係者)からの意見や要望を教育目標や育成人材像に反映させていく。

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0

①課題

すべての項目で「適切～ほぼ適切」と評価された。

学園の年間業務計画書であるOCP計画書の中で月単位の業務計画を策定し、その遂行状況を朝礼等で確認・報告している。

また、学園の組織図や意思決定機関もOCP計画書に明示され、組織図に従った意思決定とコンプライアンスを遵守した組織運営がなされている。

人事・給与に関する規定も整備されており、職員に周知されている。

情報システムのうちメール・システムに関してOffice365メール・システムを利用することにより、その利便性が大幅に改善されたが、平成28年度末に新システムへの移行を予定していた学生管理システムに関しては、移行が実現していない。

②今後の改善方策

学生管理システムの移行を含めた新システムの構築・運用を早期に実現し、さらに全職員にコンピュータリテラシー教育を施し学生指導や日常業務の遂行上必要なコンピュータ資源の有効活用に努めていく。

③特記事項

毎年一回、前年度末までに次年度の業務計画を策定し、全職員でその内容を確認するための総会を行っている。月別の年間業務計画について、その遂行状況を朝礼の場で担当者より発表し、全体で確認している。

学園・学校の運営組織及び職位をOCP計画書の組織図に明記し、学園諸規則において意思決定機能を果たすべく具体性を保持している。

学園諸規則集の中に就業規則・給与規程・育児介護休業規程・教職員採用規程・組織責任者規定・個人情報取扱規則等、就業・業務遂行等に必要な規定は網羅されており、全職員に周知されている。

学校の特徴、各学科の教育目標、目指す人物像、合格実績、卒業後の進路、教育活動や教育環境、附帯教育等、広範にわたって過不足なく学校情報をホームページにて公開している。

開校当初より全館無線LANが利用できる環境を整備しており、全職員が1人1台タブレット端末(iPad)を保有し会議資料の閲覧や授業で活用している。

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	4	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	5	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	2	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	1	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	4	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	4	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」「⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

授業評価については平成27年度と同様、新入教職員に対する模擬授業評価の実施のみにとどまっており、早急な評価体制の確立および授業評価の実施が必要である。

インターンシップについては平成28年度についても、ホテル・ブライダル科の長期ホテル・インターンシップ、医療事務科の病院実習を実施しているが、公務員科の短期インターンシップは実施できていない。

②今後の改善方策

平成26年度からの課題でもある「教職員に対する授業評価」については、早急に授業評価計画を策定し、校長を中心とした定期的な評価の実施とその評価結果を踏まえた面談等を通じて、教職員の業務力向上に努めていく。

公務員科のインターンシップについて、全員が参加できるよう研修先の確保および体制づくりに努めていく。

専攻分野における教員研修に関しては今後も、各専攻分野における外部研修を学校として情報収集し、各職員に参加を指示する形で組織的に行い、計画的なレベルアップを図る。

③特記事項

学科毎の目指すべき人物像、将来の職業を実現するために必要な専門能力の修得に加え、社会人として必要な職場基礎力(自己管理能力、協調行動力、IT活用力、海外行動力)の修得に必要なカリキュラムを定め、入学当初よりその修得に向けた授業を実施している。

また、職場における実践的ビジネスマナー習得のために、内定職種別にロールプレイングを中心としたビジネスマナー教育(PCP教育)を実施しており、効果測定によりその習熟度を確認している。

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	4	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	7	1	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	1	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

平成27年度の課題であった「退学率の低減」について、平成28年度は改善が見られた。

従来からの課題である「卒業生の社会的な活躍・評価や卒業後のキャリア形成への効果」について具体的な把握が出来ていない。また、在校生の社会的な評価も現状、限られた範囲(高校等)での把握にとどまっている。

卒業後のキャリア形成を考慮し、簿記等の社会人向け講座を開講しているが、科目数・コース数等の量的な面での充実度は十分とは言えない。

②今後の改善方策

退学者の減少に向けて担任を中心とした日常的な指導のほか、必要に応じて学科責任者や校長の面接指導を実施しており、今後も継続して退学者の減少に努めていく

卒業生・在校生の社会的な活躍や評価を把握する仕組みについて教職員間で協議を重ね、また学校関係者各位にも意見を伺いながらその評価システムの構築を目指していく。

③特記事項

日々の授業や学生指導を通じて、専門的な知識や技術の習得はもとより資格取得や就職、公務員試験の合格に努めており、開校以来、高水準の成果を上げている。

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	5	0	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	5	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	8	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	8	1	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	1	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	4	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「⑧卒業生への支援体制はあるか」「⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

卒業生への支援体制については昨年度からの課題であり、卒業生の動向把握や支援についての体制が確立していないのが現状である。

社会人のニーズを踏まえた教育環境について、ソフト面において簿記、公務員、行政書士、宅地建物取引士等、様々な教室通学講座を開講しているが、その中の公務員講座については高卒程度のみであり、最もニーズのある大卒程度公務員の教室通学講座は開講していない。

②今後の改善方策

卒業生への支援体制については平成26年度からの継続課題となるが、卒業後の状況やニーズを把握するために、同窓会の組織化等を含めどのような方法が最適かを継続して検討していく。

社会人のニーズを踏まえた教育環境については、現状のマンパワーを考慮しつつラインナップの拡大を図っていく。

③特記事項

進路・就職に関するサポートは、就職専任スタッフ(キャリアサポート室)と各クラス担任が連携し、求人情報の提供、学生・保護者向け就職ガイダンスの実施、学生向け面接指導等を行っている。

学生に対する経済的支援は、「資格経歴特別奨学生制度」「総合評価特別奨学生制度」「兄弟姉妹等特別奨学生制度」「海外研修旅行支援制度(オーバークロス・プログラム)」等を設けており、その他公的支援制度として「日本学生支援機構奨学金制度」が利用可能である。

また、年一回の6地区合同(名古屋、岐阜、津、浜松、静岡、沼津)のスポーツフェスティバルの開催や地区ごとのクラブ・サークル活動の支援、ボランティア活動の支援等を実施している。

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	2	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	6	1	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	6	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」「②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

教室(通常教室・実習室)や教育備品(パーソナル・コンピュータ)等の学校施設・設備に関しては、学生数に応じ適正に用意されており、学びやすい環境整備を心掛けているが、教室数に余裕がなく、若干の窮屈さを感じる場面が生じている。

海外研修について、学生の自主的な海外体験に対する支援制度として「オーバーシーズプログラム」を設けており、若干名ではあるが利用申請も出ている。学校主催の団体旅行的海外研修は現在実施しておらず、当面実施の予定もない。

②今後の改善方策

教室環境整備については平成27年度からの継続課題となるが、学生・受講生に窮屈さを感じさせないような工夫を継続して行っていく。

海外研修については、学生の将来の海外赴任や海外出張を想定し、自分自身で旅行の手配や渡航手続きを行うことを趣旨とした「オーバーシーズプログラム」を設けており、今後この制度の普及啓蒙に勤めることで、学生の海外体験を推進していく。

防災に対する体制については、職員および学生を対象とした避難訓練を実施すべく関係機関と調整中である。

③特記事項

学園全体でiPadを活用した授業に取り組んでおり、全館で無線LANを使用できる環境が整っている。その他、授業や実習に必要な教育用備品についても必要十分な数量を取り揃えている。

平成28年度においても、ホテル・ブライダル科で1ヶ月間のホテル・インターンシップ研修、医療事務科で病院実習を実施しており、実習先企業より一定の評価をいただいている。

防災設備の年2回の点検は専門業者に委託し、その結果を消防署等へ届け出ている。また、職員に対する防災訓練を年1回実施しており、消防設備の使用の確認を行っている。また、震災等に備えて非常用食糧、飲料水を備蓄している。

また、校舎内滞在者数の把握に関し、学生・受講者については出欠管理の徹底により、また、自習者については、入館時のチェック及び自習ブース利用カードの提示を義務付けることにより把握している。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0

①課題

すべての項目で「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

学生の募集活動と募集活動における教育成果の伝達について8割の教職員が適正に行われていると答えている。

この事からも学生の受入れ募集については適正に行われていると言え、今後も現在の体制を継続・維持していくとともに、より多くの入学希望者や潜在者に対して学校の魅力が伝えられるよう努めていく。

また、校長をはじめとした教務担当者の高校訪問等を継続して実施することにより、学校の魅力を直接伝えられる機会を増やすよう努めていく。

③特記事項

学生募集活動は企画広報室を中心に教務と連携を取りながら、学校案内書の作成、学校説明会の実施、学校見学会の受入れ等を行っており、常に適正な説明・対応を心掛けており、現に適正に行われているものと思われる。

また、学納金についても妥当な額であると思われる。

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	8	2	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	8	2	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	9	1	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	9	1	0	0

①課題

すべての項目で「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

財務内容については現状これといった問題はなく、会計監査についても適正に行われている。
また、学園全体の財務情報もホームページに公開されており財務情報の公開も適正である。

③特記事項

学園全体の財務情報は適正な手続きを経て作成されており、また財務基盤も安定していると言える。

新年度の事業計画を反映した資金収支予算・消費収支予算が組まれており、理事会・評議委員会での必要な手続きを経て新年度の事業計画や予算が承認されている。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	10	0	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	4	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	3	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0

①課題

すべての項目で「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

学園全体で関係諸法令の遵守に努めており、適正な学校運営がなされている。

また、自己点検・自己評価の実施も行っており、その結果についてもホームページで公表している。

③特記事項

学校運営に関し、法令や専修学校設置基準等を遵守した運営がなされている。

個人情報の保護・取扱いに関して、学園諸規則集の中に個人情報取扱規則を定め適正な保護・取扱いがなされている。

平成27年度より自己点検・評価の実施と自己評価結果の公開を行っている。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	2	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	9	1	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	2	0	0

①課題

すべての項目で「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献については、現状、社会人向け講座の開講のみにとどまっている。

②今後の改善方策

今後も、地元自治会や商店街等と連携し、地域のニーズを把握し、ニーズに応じた社会貢献・地域貢献に努めていく。

学生のボランティア活動を推奨し、地域のお祭りやイベントなどへのボランティア参加を継続していく。

③特記事項

学園では、学校の教育資源や教育施設を利用した社会貢献の一環として、様々な公共職業訓練講座を受託し実施しており、離職者や高齢者の再就職のための知識や技術の習得に貢献している。今後、沼津校でも可能な限り公共職業訓練等を受託していきたい。